

臨床研究に関する情報の公開

作成日：2026/8/26

研究課題名	視神経に近接した腫瘍に対するハイブリッド定位的放射線治療の有用性と治療成績の検討
研究の対象	これまでに、当院で視神経に近接した腫瘍に対する定位的放射線治療を受けられ、ハイブリッド照射が有用と診断された患者さん。
研究目的	髄膜腫などの良性腫瘍に対する放射線治療では、分割照射（hypofractionated）に比べて、病変に対して必要量の放射線を1回で照射する放射線治療（single-fraction）の優位性が報告されている。一方、視神経周囲の病変では、視力障害などの合併症を回避するため分割照射を余儀なくされることがある。そこで、1回照射と分割照射の両方の利点を最大限活用するハイブリッド照射法を考案した。具体的には、視神経への照射が5Gy以下となるように、視神経周囲を避けて大部分の腫瘍に1回照射を行い、視神経の周囲の非照射部分のみに対して分割照射を行う。したがって、この照射では、腫瘍の大部分は1回照射を受けることになり、より良好な腫瘍増大抑制効果が期待できる。このハイブリッド定位的放射線治療の有用性と治療成績を検討する。
研究方法	視神経、視交叉、視索などに近接した腫瘍の症例に対して、視神経への線量計算で5-6Gyの照射領域が10%以下になるようにする。1回照射の照射辺縁線量は、腫瘍の組織像で決定するが、非機能性下垂体腺腫は15Gy、機能性下垂体腺腫は25Gy、髄膜腫は12Gy、異型性髄膜腫は17Gyとする。分割照射の線量は、報告されている腫瘍のアルファ／ベータ比より、1回照射と同等の照射線量とする。分割数は3-5分割とし、分割照射の間隔は、6時間以上とする。視機能および下垂体機能への影響と照射後の画像変化を検討する。
研究に用いる試料・情報の項目 （例：血液、検査データ、診療記録等）	① 視力障害などの臨床症状、診療録記録 ② ホルモンなどの採血検査結果 ③ MRI や CT など画像検査による腫瘍の形状変化
研究期間	2018年6月1日～現在研究継続中
外部への試料・情報の提供、取り扱いについて	原則、外部への試料・情報の提供は行いません。医療情報のデータの保管・管理は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。
研究代表者の氏名及び所属する研究機関の名称	北野 昌彦 社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科
研究責任者および試料・情報の管理責任者（共同研究の場合は研究代表者）の氏名及び所属する研究機関の名称	北野 昌彦 社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科
上記以外の研究機関の名称	
本研究に対するご質問などについて	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
ご質問のお問い合わせ先	社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科 北野 昌彦 〒556-0017 大阪市浪速区湊町1-4-48 TEL:06-6568-1601 FAX:06-66568-1608 Email: mkitano@tominaga.or.jp 研究代表者 北野 昌彦